

## 令和3年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 教育目標 自立性のある子供 元気にあそべる子
2. 本年度の重点目標 (学校評価の具体的な目標や計画)

感染症対策を実施した上で、地域や近隣の中学校との交流会等関わりをもっていく

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

<※評価点はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)>

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
I 保育の計画性	A	学年ごとの発達段階を配慮した計画・活動はできたが、異年齢の交流が少なかった	A	感染症対策として、異年齢が交流する機会が減ったが、たてわりのクラス配置を活かし普段の生活で関わりを持っていくと良いと思う。
II 保育の在り方・幼児への対応	A	クラスの子供一人ひとりに寄り添う保育をしていくよう努めている。他のクラスの子供に対しても指導上配慮を必要とする子の共通理解ができるよう保育者同士情報共有し連携していきたい	A	どの先生も一人ひとりの子供をよく観察するよう心がけている。今後も教職員間で協力、連携をしていくと良いと思う。
III 保育者としての能力や良識・適正	A	各自保育者としての自覚と責任を持ち、真面目に努力する姿が見られる。今後も組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたい。	A	保育者としての能力や専門知識が足りていないと反省している先生もいるので、研修等で学び身に付けて欲しい。
IV 保護者への対応	A	情報発信や言葉遣い等のマナーはしっかり意識してできている。今後も、保護者に信頼される保育者を目指して誠実に対応していきたい。	A	研修をしっかりと受けているため、保護者への挨拶や言葉遣い等対応が丁寧である。
V 地域の自然や社会との関わり	B	感染症対策をしながら、中学生の職業体験を受入れ関わりを持たせた。地域についてもっと関心を持ち、情報を得るよう努力したい。	B	外部講師を招いて子育て講演会やベビーマッサージを実施して、子育て支援ができている。地域との関わりを深められると良い。
VI 研修と研究	B	発達医療センターの職員と園の職員が連携して行っている療育支援グループの活動が、いい経験になっている。	B	積極的に研修に参加したいと望む先生が多いので、可能な限り研修に参加していき自らを高めたいって欲しい。

4. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

感染症対策をしながら、近隣の中学生の職業体験の受入れを実施できた。受け入れた中学生の中に卒園児もいたため、園児や職員に良い刺激になった。

5. 今後取り組むべき課題

地域の公立幼稚園、小学校を招き公開保育を実施し、当園の教育内容の理解を図る機会としたい。